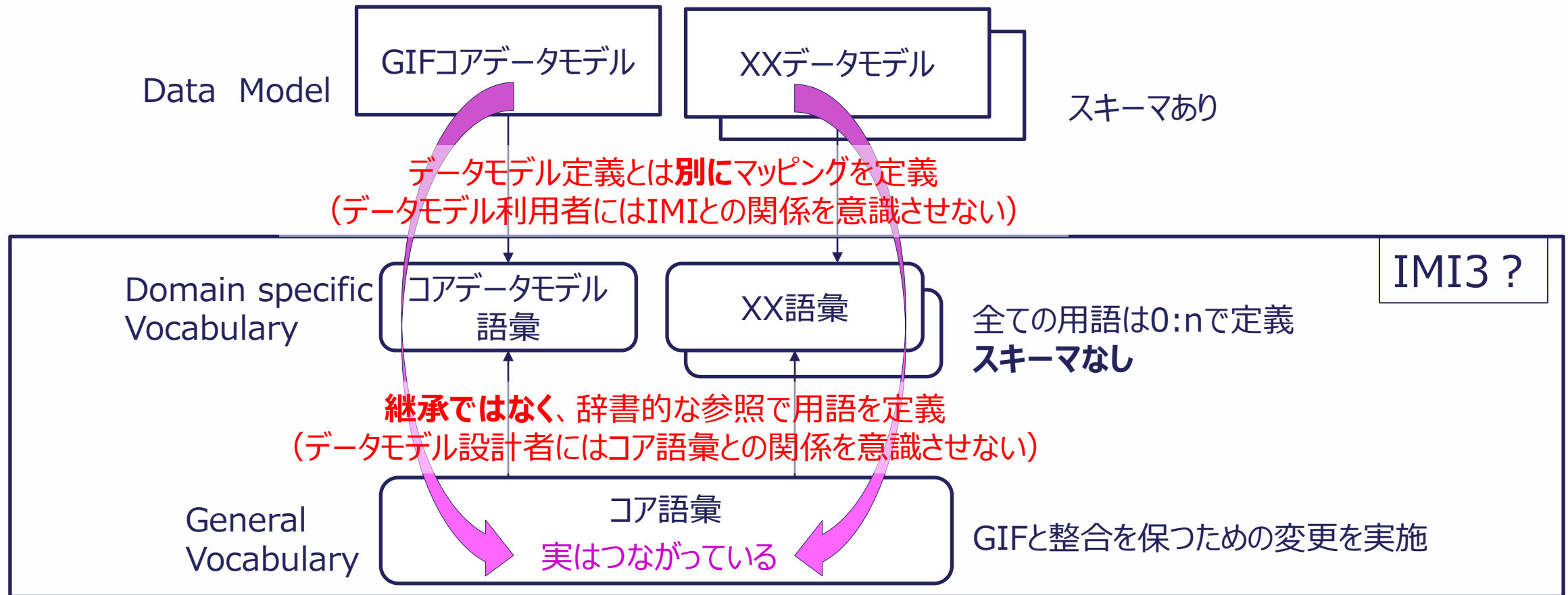


データモデル用の語彙をDomain specificに定義

データモデル — ドメイン語彙 — コア語彙 の関係は表に出さず、
(相互運用性を考える必要がある) データ設計者のみが知るべき情報として提供する



GIFとIMIの関係整理

(1)コア語彙の改訂

1. 現状

コア語彙では要素名に日本語を使用しており、今後の国際化等の観点からGIFと同じく英語(英文字)への変更が求められている。

2. 課題

コア語彙における要素名の英語化が必要。

3. 対応方針

WGにてコア語彙の要素名を再検討。

4. 目標と成果物

要素名を英語化したコア語彙の改訂

コア語彙
#name "住所型"
"住所を表現するためのクラス用語"
#name@en "Address"
#description@en "A class term to express an address."
class ic:住所型 {@ic:事物型} ;

コア語彙米国英語変換表
(schema.orgをベースに検討し公開済み)
住所型 → PostalAddress

GIF
PD:Address

NIEM
nc:AddressType

...

要素名を再検討しコア語彙を改訂

コア語彙 (要素名にAddressを採用した場合)
#name "Address"
#name@ja "住所型"
"住所を表現するためのクラス用語"
#name@en "Address"
#description@en "A class term to express an address."
class ic:Address {@ic:Thing} ;

GIFとIMIの関係整理

(4)IMIドメイン

1. 現状

IMIサイトについて、ドメインやツールにおける主管・役割分担が整理できていない。

2. 課題

1. METIから引き取ったIMIツールをデジタル庁側でGIFツールとして管理・公開するのか、もしくはIMIとしてIPAで行うのかを検討する必要がある。(データ人材評価ツール、データ品質評価ツール、GeoJSON変換ツール (mojxml2geojson)、IMIコンポーネントツール、GIF Dataverse展開ソリューション等)
2. 独立行政法人が保有できる”go”ドメインは1つまでという制限により、IPAはドメインオーナーとなれずデジタル庁がオーナーになっている。

3. 対応方針

IMIサイトの役割分担やサイトのドメイン名の再検討を実施し、検討結果に合わせた実装を行う。

4. 目標と成果物

1. サイトの再構築の実施

5. スケジュール

1. ドメインの主管とドメイン名、役割分担の再検討 2024.2Qまで
2. 検討結果に基づいたサイトの再構築 2024.3Q